

公開シンポジウム

# 「越境する」社会学：

## 近接領域と社会学理論との対話

日時：2017年6月3日（土）午前10時～12時半

会場：日本大学文理学部キャンパス3号館5階 3508教室  
（京王線 下高井戸あるいは桜上水下車、徒歩8分）

主催：日本学術会議社会学委員会社会理論分科会

共催：関東社会学会

### 趣旨

日本学術会議第22期の報告「社会学理論の復興をめざして」では、社会学理論を「社会学分野にとどまる研究ではなくて、さまざまな分野のディシプリンの成果を生かすことによって可能になる」とし、「すでに確立している学問分野をディシプリンの意義を十分に尊重した上で、『社会学理論』というキーワードのもとに、社会そのものを研究対象とする学術の意義を問い直そうとする」ことの重要性を指摘している。本シンポジウムは、異なるディシプリンから、広くアジアに関わるさまざまな事象を対象にアプローチされている人文・社会系の4名の研究者をお呼びし、自らの研究からみた社会学がどのようなもので、その研究にとって社会学理論がどのような意味をもっているか／いないかをご報告いただくとともに、その具体的な発言を軸に社会学理論のあるべき姿について議論を深めていくことを目的とする。

### シンポジウム

#### 報告者

末廣 昭(学習院大学)地域研究・経済学

岸本 美緒(お茶の水女子大学)中国史

木村 忠正(立教大学)文化人類学

東谷 護(成城大学)音楽学

#### コメンテーター

吉原 直樹(横浜国立大学)

正村 俊之(大妻女子大学)

#### 司会

遠藤 薫(学習院大学)

園田 茂人(東京大学)

申込不要・参加無料